

■ 年内は世界株高継続でドル安になびきやすい！？

ユーロ／ドルが再び1.20ドル台に乗せ、さらに昨日のNY時間以降は1.21ドル台で推移する展開となっている。言うまでもなく、これはユーロ高というよりもドル安。主要因は、世界的な株高を背景としたリスク選好ムードの広がりであるというのが一般的な市場の受け止めであるが、正味のところは「比較的値動きのいいものについて」、いや「比較的動かしやすいものを動かした」といった程度のものであろう。まあ、それが外国為替相場なのだが…。

なにしろ、過去にあまり経験がないほど株高の状態が長く続いている。それだけ、リスク選好のドル売りも続いているわけだ。もちろん、それは誰もが指摘するように異常なまでの「カネ余り状態」の結果であり、それを醸しているのがコロナ禍。このパンデミックが極めて稀な自然現象であるだけに、目の前の金融相場も極めて稀な値動きになっている。すべてが異常な状態にあるなかでの、過度なドル安を目の当たりにしていると心得たい。

目下の市場は、年内にも供給が始まるとされている幾種類の新型コロナウイルス向けワクチンについて「そのすべてが万能であり、直ちに全世界のすべての人々に行き渡る」かのような反応を見せている。むしろ、いずれ（年明け1月半ばあたりからであろうか）「現実」は自ずと明らかになってくるに違いない。

待てども暮らせども、一般の人々にワクチンはなかなか回ってこないし、一部では一定の副作用が確認されたりもするだろう。もちろん、ワクチン接種を拒否する向きも少なくはないと見られ、それ自体が社会不安を招きかねない。目下の市場の盛り上がりには水を差すつもりは毛頭ないが、ここは一度立ち止まって冷静に当面の行方を見通す必要があるだろう。

逆に言えば、少なくとも年内は世界的な株高ラリーが継続して、いわゆる「掉尾の一振」で締めくくりとなる可能性が高い。まして、足下では再び米追加経済対策への期待が高まり始めている。米民主党が米共和党に譲歩することで、年内に法案通過が実現する可能性が出てきたというのだ。その意味からしても、年内は市場に様々な期待感が渦巻くことで、その間は基本的にドル安になびきやすい状態が続くと見られる。



結果、ユーロ／ドルがもう一段の上値を試す可能性は十分にある。左図に見るとおり、ユーロ／ドルの08年7月高値＝1.6038ドルと以降の目立った高値を結ぶ長期レジスタンスラインが、今回はついにブレイクされる格好となった。

さらに、先週から週足のパラボリックが陽転してきている。あくまでユーロ主体ではないのだが、当面は1.25ドル処が意識されておかしくない。むしろ、それは「市場が期待している通りに英・EU間の通商交渉が年内にまとまり、欧州復興基金が年明けから正常に稼働し始めるという前提が崩れなければ」という条件付きだ。

なお、其々が期待通りの運びになったとしても、この時期まで先延ばしされたことに伴う数々の不都合が年明け以降に露呈してくることは間違いなく、やはり遅くとも年明け一月半ばあたりからユーロ相場には一波乱あつておかしくないものと見られる。

ちなみに、比較的短期の売買を繰り返す向きには30分足チャート上にパラボリック（AF＝0.02／EP＝0.2）を描画して、そのシグナルに従ってみることをオススメしたい。

（12月03日 10：20）